



QRコードから、ぜひ印刷労連のHPもご覧ください。

連合印刷労連 労働相談ダイヤル  
 03-5442-0191

全国各地において連合メーデー大会が開催されました。「支え合い・助け合う社会をつくり、くらしをまもる! 笑顔あふれる未来をめざし 力を合わせ、ともに進もう!」のスローガンのもと、全国で印刷労連の仲間が参加してきましたので報告します。

## 第94回 メーデー中央大会

2023年4月29日(金)に東京・代々木公園において開催され、4年ぶりに参加者制限をしない形式で参集し、28,500名が参加しました。印刷労連からは本部・関東南部地方協議会を中心に80名が現地に参加し、労働条件の改善、人権の確立、平和への想いなどを共有しました。



### 「メーデー」とは

5月1日のメーデー(May Day)は、古くからヨーロッパでは「夏の訪れを祝う日」とされ祝日とされてきました。一方で、低賃金と長時間労働に苦しめられていた米国の労働者がゼネラルストライキ(全国的な規模で行われる労働争議)を行ったのが1886年の5月1日で、彼らは翌年以降も5月1日にゼネストを実施。この動きが世界の労働組合に広まり、1890年5月1日に第1回国際メーデーが多くの国で開催されました。これが今に続く「労働者の祭典」としてのメーデーの起源となったのです。

日本では1920年5月2日に第1回メーデーが東京・上野公園で開かれました。第二次世界大戦中は政府により開催が禁止されましたが、戦後、労働組合の活動再開とともに再び開かれるようになり、日本の労働者の地位や労働条件の向上、権利拡大をはじめ、人権・労働基本権の確立、民主主義の発展、恒久平和の希求に深く貢献し、その役割を果たしてきました。現在のメーデーは、米国の労働者が労働条件の改善を訴えたその想いを受け継ぎつつ、働く仲間とお互いをねぎらい、たたえ合いながら、家族や地域の皆さんにも楽しんでもらえる一大イベントとして世界中で愛されています。

「たすけあいの輪をむすぶ」  
 こくみん共済 coop は、次のステージへ

- |        |        |          |
|--------|--------|----------|
| こくみん共済 | 団体生命共済 | 住まいる共済   |
| 総合医療共済 | せいの共済  | 交通災害共済   |
| マイカー共済 | 自賠責共済  | 新セット移行共済 |



こくみん共済 NEWS

公式キャラクター  
 ヒットくん

たすけあいの輪をむすぶ

こくみん共済 全労済

「こくみん共済 coop」は憲法を目的としない保障の生涯として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆が安心と誇りあふれる暮らしを実現することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資を申し込んで団体または労働者の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

### 労働組合

組合員の社会的・経済的地位の向上

- 組合員の生活・労働条件の向上と雇用の安定
- 組合員とのコミュニケーション強化

ワークライフバランスの実現  
 セーフティネットの構築  
 組織の強化と拡大

### ろうきん

生活応援運動

- はたらく人の生活にわたるライフイベントのサポート
- 金融商品・サービスに関する消費者教育
- 計画的な貯蓄・運用による資産形成の提案

生活設計  
 生活防衛  
 生活改善

北関東ろうきん・東北ろうきん・中央ろうきん・関東ろうきん・東海ろうきん  
 信濃ろうきん・近畿ろうきん・東海ろうきん・近畿ろうきん・中部ろうきん  
 四国ろうきん・九州ろうきん・沖縄ろうきん

お近くのろうきんのウェブサイトはこちら

<https://all.rokin.or.jp/info/list.html>

2023年4月1日作成

# 写真でめぐる各地のメーデー

全国各地でメーデー大会が開催されました。多くの働く仲間、印刷労連に集う組合員、そのご家族が参加されましたので、その記録を御覧ください。

⑮ メーデー奈良地方大会

4/29 参加者：9名



⑫ 諏訪地区メーデー

4/23 参加者：3名



⑩ 長野県中央メーデー

5/1 参加者：20名



⑯ 大阪地方メーデー

5/1 参加者：66名



⑬ 京都中央メーデー

4/29 参加者：50名



⑪ 上小地区メーデー

5/1 参加者：7名



⑰ 兵庫県メーデー神戸中央大会

4/29 参加者：5名



⑭ 滋賀県4区労働者統一メーデー

4/29 参加者：5名



⑲ 福岡メーデー

4/29 参加者：7名



⑲

⑳

⑰

⑯

⑱

⑳ メーデー肥後有明集会

4/29 参加者：23名



⑱ メーデー高知県東地協大会

4/27 参加者：3名





① 全道メーデー大会

5/1 参加者：6名



② メーデー宮城県大会

4/29 参加者：10名



③ 石川県統一メーデー金沢中央大会

5/1 参加者：10名



④ 茨城県中央メーデー

4/22 参加者：5名



⑤ 埼玉県中央メーデー

4/29 参加者：35名



⑥ 三多摩メーデー

4/29 参加者：50名



中央



⑨ 愛知県中央メーデー

4/29 参加者：2名



⑧ 沼三地協ファミリーメーデー

5/13 参加者：30名



⑦ 相模原地域メーデー

4/23 参加者：3名



# 連合 愛のキャンパ

## について聞いてみた!

### インタビューー



教育・広報委員会  
勝又委員長

今回は、教育広報委員会の活動として、例年職場の皆さんにご協力いただいている「連合・愛のキャンパ」について、連合で運営にあたっている連帯活動局に伺ってまいりましたので、その一部をご紹介します。

ご対応いただいたのは、総合運動推進局長の内藤さん(写真左)と連帯活動局長の森さん(写真右)です。



総合運動推進局  
内藤局長

連帯活動局  
森局長

(勝又) いつ、どのような経緯(目的)でスタートしたのでしょうか。

(連合) 連合結成以前の民間連合において、飢餓に苦しむ方を対象に「愛のミルクキャンパ」の名称で活動を始めていました。その取り組みを、連合結成時(1989年11月)に現在の名称「愛のキャンパ」として活動を引き継いだのが始まりです。以降は、皆さまの支援のもと、領域や支援対象を広げながら今日に至っています。

(勝又) 助成先には「中央助成」と「地域助成」がありますが、どのように選定しているのでしょうか。

(連合) 連合加盟産別が推薦する中央助成と地方連合会が推薦する地域助成の二つがあります。連合の運動推進委員会の中に「愛のキャンパ」作業委員会を設置し審査をしています。地域助成については、地域に根差した顔の見える運動をしている中で、キャンパを利用してもらいながら、地域との繋がりを深めるということも目的としています。

(勝又) 助成を受けた団体の具体的な活用事例について教えてください。

(連合) 例えば、『アジア連帯委員会』では、タイ・ラオスを中心に救援物資支援や小学校の建設支援、教育支援などを行い、健全な経済社会開発に貢献しています。貧困や多くの問題を抱えるアジアの人々を支援し、交流活動を通じて、連携を深めているNGO組織です。また、『国際セラピードッグ協会』では、殺処分寸前の捨て犬達を救助し、セラピードッグを育成することで社会へお返しするという活動を行なっています。

(勝又) 今後、「連合・愛のキャンパ」は、どのような活動の展開をしていきますか。



(連合) 助成をしている団体の活動にまで掘り下げて紹介をしていきたいです。そして、「連合・愛のキャンパ」と「ゆにふあん」の活動を有機的に連携させ、その団体の活動をサポートしていきたいと考えています。また、コロナ禍でのテレワークやキャッシュレスの普及などを踏まえ、環境に合ったキャンパ活動のあり方についても議論を行なっていきます。

(勝又) 組合員の皆さんへメッセージをお願いします。

(連合) 私たちが安心して暮らし、働き、労働運動に携わるには、「社会が平和で安定していること」が大前提です。戦争や災害、差別があつてはこの前提が崩れます。そのため連合は、平和運動、人権運動、自然災害への対処等に積極的に取り組み、世論を巻き起こし、地球規模での“絆づくり”を進めています。その取り組みの一環が愛のキャンパです。組合員、ご家族含めご理解いただいた中で、更なるご協力をお願いします。

### 「連合・愛のキャンパ」とは

“「連合・愛のキャンパ」は「自由、平等、公正で平和な世界の実現」に向けた社会貢献活動として取り組むもので、NGO・NPO等の事業・プログラムへの支援、および自然災害などによる被災者に対する救援・支援を目的としています。

毎年おおよそ1億円のキャンパ金が寄せられる「連合・愛のキャンパ」をNGO・NPO等の事業・プログラムへと寄付することで、国内外の多くの人々を応援しています。”

引用：連合ホームページより

<https://www.jtuc-rengo.or.jp/activity/kizuna/campa/>

### — 編集後記 —

本号で掲載した通り、本年のメーデー大会は、コロナ禍から規模を大きくして各地で開催されました。そして5月8日には、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行しました。まだウイルスの脅威が無くなったわけではありませんが、皆さまのご家庭や職場においても、少しずつ新たな一歩を踏み出しているのではないかと思います。組合活動についても次の一歩に向けて、お互いに知恵を出し合いながら進めてまいりましょう。

教育・広報委員会 藤原隆之